



平成22年度特色ある学校づくりサポート事業報告書

「確かな学力と心豊かな子どもを育てる地域と学校のネットワークづくり」 ～西袋地区におけるMCL推進運動を中心に～

1 事業の目的

基本的な考え方

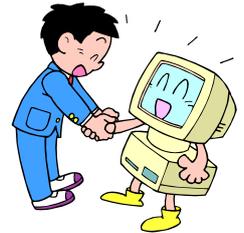
- ・ 西袋地区は、須賀川市街地の西部及び北部に隣接し、昭和40年代以降西川土地区画整理事業、西川第二、山寺及び下宿土地区画整理事業や民間の宅地開発、さらにはアパートの建設などによって急激に発展してきた地域と、昔からの農村地帯が存在する地域から成り立っています。
- ・ 今回のこのMCL推進事業は、西袋地区各小・中学校の校長及び公民館長、明るいまちづくりの会西袋地区会長が、平成21年度に西袋公民館に集まり、そして、話し合いを行い実施することとなりました。明るいまちづくりの会西袋地区会については、その会長・副会長である各区長・町内会長に明るいまちづくりの会の代表が説明をし、この事業の了解と協力を得るようにしています。
- ・ 平成21年度から3年間の継続事業としてこのMCL推進運動に取り組み、今年度(22年度)は、西袋第二小学校が主管校として、この事業を実施しました。

(1) 目的

西袋地区の児童生徒が、メディアと節度ある接し方や使用方法をすることによって、規律ある生活や学習習慣を形成するとともに、児童生徒の学力の向上を図るようにする。

メディアを上手に活用し、家族や地域の人とのふれあいの持てる人間性豊かな児童生徒を育てるようにする。

児童生徒の健全育成を図るとともに、コミュニティを大切にする人材を育て、地域全体のコミュニティの活性化につなげていくようにする。



(2) 事業を実施する理由

近年のメディアの急速な発達や普及により、児童生徒はテレビやゲームの見過ぎややり過ぎ、携帯電話やメールなどによるトラブルの発生などが社会問題化してきています。

脳とメディアとの関係などを研究している専門家によると、児童生徒のメディアとの接触時間が長くなると、感情がうまくコントロールできなくなる、相手を思いやることや命の大切さがわからなくなる、外遊びをしなくなることで体力が落ち、けがをしやすくなる、テレビゲームなどの平面画面を見続けることにより、立体感覚がなくなり視力の発達に影響があるなどの報告がなされています。

また、一昨年度実施した西袋地区の小・中学校の全児童生徒を対象としたアンケート調査の結果から、全国平均よりメディアとの接触時間が少ないとの結果が出ていますが、4時間以上メディア漬けになっている児童生徒が全体の約13%いることも見逃すことができません。今後児童生徒の発達に歪が生じない

ように、現段階からメディアをコントロールした生活に、学校を中心とした地域をあげての取り組みにすることによって、児童生徒の健全育成を図っていこうと考えました。

また、このMCL推進運動の他に一昨年度から実施している小・中連携、小・小連携を継続して実践することによって、以下の点について充実・改善していきたいと考えました。

- ・ 児童生徒の義務教育9年間を見通した継続的な学習指導や生徒指導を円滑に進めるために、小中学校の連携をさらに促進していく。
- ・ 西袋地区小・中連携並びに小・小連携のもとに、西袋地区内の教育の向上を図るため、地区をあげての組織や運営のあり方について研究改善する。

3 実施の内容

(1) MCL 推進運動

平成22年度	6月27日(日) MCL 推進大会 (メディア・コントロール・ライブ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西袋地区小中学校及び保護者そして地域が一体となり、メディアについて理解を深め、メディアを主体的にコントロールすることによって、児童生徒の健全育成、家庭学習時間の確保、家族のつながり・地域コミュニティの進展を図るように意欲付けをするようにした。市文化センターを会場に、地域住民も含め約千名が参加した。
	1年を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童会、生徒会を中心とした各学校のMCL運動継続実践 ・ MCLカレンダーを活用しての各家庭での実践



(2) 小・小連携、小・中連携の取り組み

学期	小学校	中学校
1 学期	児童一人ひとりの学力実態の分析	「確かな学力の定着についての取組み」
	第1回小中連携連絡会議(4/20)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各校の取組みの意見交流、課題の明確化 ・ 今後の活動の確認
	授業研究相互交流	授業研究相互交流
2 学期	生徒指導特別委員会(9/3) 西二小にて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各校の生徒指導上の問題、学力向上に向けた取組みについて情報交換
	授業研究相互交流	授業研究相互交流
	小・小連携交流授業(10/19) 道徳・外国語	
	小・中連携授業(授業・部活動体験)(11/15) 西中にて	
3 学期	小・小連携交流授業(1/19) 学級活動	
	小中連携 西中英語教師による出前授業(2/15) 西二小にて	
	第2回小中連携連絡会議(2/22)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の事業の評価・改善について ・ 来年度教育課程への位置づけについて
	研究のまとめ、児童一人ひとりの学力の分析	
	中学校との引き継ぎ、事務連絡	

(3) 事業の目標達成度

	項目	左の目標及び効果を把握するための指標名及び数値
M C L 推 進 運 動	目標の達成度を把握するために適 当な数値指標名(その1)	指標名(平日の平均メディアの利用時間)
	順調に達成された	(平日1日のメディア利用時間)が(2時間)以下達成
	ほぼ順調に達成された場合の数値	(同上)が(2時間~3時間)
	順調に達成されなかった場合の数値	(同上)が(3時間)以上
	目標の達成度を把握するために適 当な数値指標名(その2)	指標名(休日の平均メディアの利用時間)
	順調に達成された	(休日1日のメディア利用時間)が(3.5時間)以下達成
	ほぼ順調に達成された場合の数値	(同上)が(3.5時間~4時間)
小 ・ 中 連 携	目標の達成度を把握するために適 当な数値指標名	指標名(市総合学力テストの目標値に対する到達度)
	順調に達成された場合の数値	国語・算数とも 到達度75以上
	ほぼ順調に達成された	(同上) 到達度70以上達成
	順調に達成されなかった場合の数値	(同上) 目標値を下回る

すべての項目でほぼ目標に達することができた。

4 まとめ

つなぎ・つながるMCL推進運動

いつの時代においても児童生徒は地域の宝物で、児童生徒の笑顔が地域にあふれていました。その笑顔を絶やすことのないようにするために、今後も、学校や地域の児童生徒に関わる組織が中心となって、MCL推進運動をつなげていきたいと考えています。

MCL運動の意義や成果はというと、即答はできませんが、その答えをだしていくためには、一人でも多くの児童生徒にこのMCL推進運動にかかわってもらい、家族や友達、地域の人達など、互いの人間関係を築いていくこと、そして、児童生徒にかかわる私達大人や教職員が、心を込めたメッセージをタイムリーに、児童生徒に発信していくことだと考えます。



©主催 漢南高等学校附属中学校、漢南中学校西蔵部一小学校、漢南小学校西蔵部中学校のPTA連合会、西蔵はし原、朝日町あつちの会西蔵地区部